

1. トモシンセシス撮影時の再撮影について

篠田総合病院 放射線科

○小林潤子 笹原世 大泉夕奈 三塚菜々子

【目的】

2019年に山形県放射線技師学会にて2D撮影時における再撮影の現状を報告した。当院にはトモシンセシス撮影モードが搭載されている。現状においてMG全体の約1/3がトモシンセシス撮影である。診療科にて主に2次検診、経過観察、術後Followで撮影している。今回トモシンセシス撮影に着目して再撮影の現状を調べたので報告する。

【装置】

Siemens Healthineers MAMMOMAT inspiration

【方法】

2022年7月1日～2023年2月28日までのトモシンセシス撮影件数と再撮件数および理由を集計した。

撮影理由：ポジショニング不良、アーチファクト、撮影条件不足に分けた。

改善率：再撮影後に改善しているか提出した画像と写損画像を比べ確認した。改善した画像を再撮影数で割ったものを改善率として算出した。

部分切除後撮影：撮影・撮影数・再撮影数を集計した。

【結果】

2019年に報告した2Dの再撮影は7.4%だったが、トモシンセシス撮影307件1206枚に対して再撮影は38枚で3.2%だった。部分切除後の撮影は26件だったがそれに対する再撮影は2件で再撮影率7.7%だった。再撮影の内訳についてポジショニングが64%、アーチファクトが10%、撮影条件不良が26%だった。再撮影後の画像の改善率は86.8%だった。再撮影した画像の改善率は86.8%だった。残りの13.2%はポジショニングが再撮前後で改善されていなかった。

【考察】

ポジショニングでの再撮影の理由として、トモシンセシス撮影時に大きな圧迫板を使用するため乳房の引き出し不良で乳腺後隙の描出が基準に満たない場合が多かった。また、部分切除後の再撮影の2例についてはポジショニング不良だった。2D撮影ではあまり見られなかった撮影条件不足がおこったのも、大きな圧迫板を使用するため、低身長や小乳房のMLO撮影時、乳房が感知領域を覆いきれなかったためと考える。

【結語】

トモシンセシス撮影における再撮影率は2D撮影より低かった。

2D撮影ではあまり見られなかった撮影条件不足による再撮影があった。小乳房のように感知領域を覆うことができない状態の被写体においてAECの動作を確認する必要がある。